大学生に見る居場所感と自己肯定感の関係

○甲村 和三¹ ・ 飯田 沙依亜^{2,3}

(¹愛知工業大学基礎教育センター・²日本術振興会特別研究員³名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター)

キーワード：居場所感、大学生、自己肯定感

Research on adaptation to campus life focusing on the relation between “the place of own” and self-affirmation

Kazumi KOHMURA¹ and Saca IIDA^{2,3}

(¹Center for General Education, Aichi Institute of Technology, ²the Japan Society for the Promotion of Science and ³Center for Developmental Clinical Psychology & Psychiatry Nagoya University)

Key words: place of own, college students, self-affirmation

目 的

「居場所」感とは自分の存在を実感できる場所といった心理的意味で用いる。人は遭遇するさまざまな場面で時に、その場に馴染めない場合もある。われわれはこれまで大学生のキャンパスライフへの適応をサポートする方法を模索し、特にキャンパスでの早めの居場所感の形成に向けたサポートの必要を検討してきた。本報告では学生たちの居場所感有無の状況、自己肯定感との関係などについて、特に、高学年（4，3年生）と低学年（2，1年生）の違い、居場所感のなさ経験の有無による違い、などを質問紙調査により検討する。

方 法

質問紙：主たる調査項目は、① 居場所感のなさの体験の有無、②居場所感のなさを体験したときの感情分析、③居場所感のなさを体験したときの対処行動、④居場所感のなさ自己肯定感情の関係などである。このうち、②と③の項目群は飯田・甲村ら、2011 で使用したものである。**調査対象者：**1～4年次の男女大学生〔有効回答者373人；1年120(32.2%)，2年98(26.3%)，3年115(30.8%)，4年40(10.7%)；男子330人、女子40人、不明3人〕である。**調査実施時期：**平成24年11～12月

結 果

1) 「居場所感のなさ」の経験の有無

居場所感のなさの経験「あり」の回答は373人中108人(29.0%)、「ない」の回答は265人(71.0%)であった。

2) 「居場所感のなさ」を経験した回答者のその時の気分

15項目について5段階の評定を求めた。結果を図1に示す。

図1 「居場所感のなさ」経験時の気分

高学年・低学年で平均評定値に有意差が認められた項目はなかった。15項目中では、特に、孤独な感じ、何をしたらよいかわからない、などの感情が顕著であった。

3) 居場所感のなさを体験したときの対処行動

14項目を用いて対処行動について「ある」との回答を高学年で比較した。その結果、対処行動についての学年差は

ほとんど見られなかった。両群共に肯定頻度が高かった(70%以上)のは、「携帯をいじっていた」「ともかく我慢した」「なるべく他事を考えていた」であり、居心地の悪い状況下で、一般的に見られる行為の選択頻度が高かった。

4) 居場所感のなさ自己肯定感情の関係

自己肯定感情などを分析するために、30の質問項目を用い5段階で評定させた。項目分類のために因子分析を行った。因子のスクリープロットによる結果を参考に5因子(主因子法・promax回転)を抽出し、各因子には含まれる項目群の内容類似性から、「自己肯定感」「大学満足感」「対人的緊張感」「将来願望」「劣位感情」と名付けた。本報告では因子分析の結果得られた平均因子得点に基づき回答者の高一低学年の比較、および居場所感の経験の有無による違いを検討した。その結果、高一低学年の比較ではすべての平均因子得点に差は認められなかった。一方、居場所感のなさの経験の有無については図2に示すように顕著な違いが見られた。経験「あり」群の平均因子得点は、「ない」群のそれとの間にすべての因子について有意差が認められた。すなわち、経験「あり」群では、「ない」群に比して、自己肯定感が弱く、大学生活の満足感が低く、対人的緊張感が強く、将来願望は低く、そして劣位感情が強いとする結果が顕著であった。

図2 居場所感のなさ経験の有無による平均因子得点の違い

考 察

本報告で検討した居場所感のなさは、高学年一低学年という学年による違いは殆ど認められなかったが、一方で自己肯定感情との関わりが強いことが知られた。両者の対応関係をさらに明らかにすれば、学生たちのキャンパスライフへの適応機序についても言及できる可能性が示唆されたと考える。

参考文献

- 堀 洋道(監)・山本真理子(編) 2001 「心理測定尺度集Ⅰ 人間の内面を探る(自己・個人内過程)」サイエンス社
- 飯田沙依亜・甲村和三 他 2011 大学生の居場所感に関する研究—居場所感のなさに着目して— 愛知工業大学研究報告 46, 49-55.
- 甲村和三・飯田沙依亜 2011 居場所感に基づく大学生のキャンパスライフへの適応に関する研究 日本心理学会第74回大会発表論文集、1196.